

使用済燃料乾式貯蔵施設についてよくあるご質問

Q1. 使用済燃料をプールから乾式貯蔵施設に移しても安全なの？

➤ 十分安全に貯蔵することができます。

伊方発電所で使い終わった燃料は、プールで15年以上にわたって貯蔵することで、使用直後に比べて十分に冷やされます。そのため、空気の自然対流で冷やす乾式貯蔵施設でも十分安全に貯蔵することができ、人がすぐそばまで近づいても全く問題ありません。

Q2. 使用済燃料をプールから乾式貯蔵施設に移しても、周りの放射線量は増えないの？

➤ これまでと変わらず、発電所の周りの皆さまへの影響はありません。

プールで15年以上貯蔵している間に使用済燃料から出る放射線量は、大幅に減ります。また、乾式キャスク本体や建屋の壁・天井などで放射線を遮へいし、施設は発電所敷地境界から十分離れた位置に設置します。そのため、発電所の境界付近の放射線量は、これまでと変わらず周りにお住まいの皆さまの生活には影響ありません。

参考

発電所の敷地外で、乾式貯蔵施設から**1年間**に受ける放射線の量 **0.001** ミリシーベルト以下

比べてみよう

- 日本人が**1年間**に自然界から受ける放射線の量 **2.1** ミリシーベルト
- 胸のエックス線集団検診**1回あたり**の放射線の量 **0.06** ミリシーベルト

Q3. 乾式貯蔵施設に貯蔵する使用済燃料は、大きな地震が来ても大丈夫なの？

➤ 大規模な地震が来ても大丈夫です。

使用済燃料は、乾式貯蔵施設の中で、頑丈な金属製のキャスクに収納し、安全に貯蔵します。そのため、仮に、伊方発電所で想定される最大の地震(基準地震動:650ガル)が発生しても、安全性に問題はなりません。

